

2017年度 褒賞申請書

事業名称	公益社団法人豊橋青年会議所 2016年度 9月事業 豊橋イクボス宣言 ～とよはしイクボス同盟結成 人も組織もまちも成長する豊橋へ～
カテゴリー	地域経済活性化部門

申請LOM	東海	地区	愛知	ブロック	豊橋	青年会議所
LOM 番号	17	LOMの人数				112名
理事長名	西島豊					
担当者名	村井裕一郎					
事務局住所	愛知県豊橋市花田町石塚42-1					
事務局TEL	0532-52-9980	事務局FAX 0532-54-1566				

本事業の参加 員数計画	会員数	114名		
	関係者数			
	一般参加者数	20社(同盟参加)		
本事業の参加 者	会員数	91名	動員達成率	80%
	関係者数			
	一般参加者数	27社	動員達成率	135%

事業背景
(200～400文字程度)

日本は少子高齢化社会が進み、私たちの住まう豊橋も例外ではない。このように労働力が減少する社会では、より少人数で柔軟に、多様な働き方の社員活用が必須である。

そのためには、生産性を高め仕事の共有化を図り、多様な働き方に対応できるワークライフバランスが実現した企業になる必要がある。そのような企業は、多様性が活かされ、生産性向上による発展を果すことができる。

そして、それは企業レベルだけでなく、従業員が家庭の充実に安心して取り組める環境は、少子高齢化問題への解決にも繋がっており、企業の生産性向上は、単なる業績改革だけでなく、人口面からも地域社会へ貢献できるようになる。

豊橋においては、現在、待機児童は0名を維持しており、子育て環境のインフラ面においては、概ね市民の満足が得られている。しかし、「子育てに理解のある企業が多い」という点では、市民の2割以下しか理解がある企業が多いと感じていない。

また、豊橋市は産業として農・工業に依存し、高付加価値産業への転換が課題の中、企業単位の労働生産性が低く全国、愛知県平均を大きく下回っており、労働集約型の働き方が継続していることが課題である。

さらに、豊橋市は『住みよいまち』と認識されているものの、外部に対する発信が弱い。産業の高付加価値化を果していく上でマーケティングやIT技術に長けた労働者にとって移住選択先としての魅力発信も課題である。

事業目的
(200～400文字程度)

- ・中小企業でも取り入れられる生産性向上の実践事例を発信することで、実際に取り入れる企業や組織が豊橋にさらに増え、豊橋の少子高齢化問題への対応が前進させる。
- ・少子高齢化社会を迎える中、子育てに理解のある企業が少ないという意見が多く、企業の意識改革を進めることで、より一層子育てしやすいまちである豊橋市を作る。

	<p>・高付加価値産業への転換が求められる中、労働生産性が低いことが課題であり、働き方の見直しにより、市内企業の労働生産性を高め、産業競争力が強化された豊橋市を作る。</p> <p>・「住みよいまち」という市民の認識を、外への魅力として明確化していき、ブランド力が向上した豊橋市を作る。</p>
事業概要 (100～200文字程度)	<p>(1)「イクボス企業」の実現にむけ企業内改革の促進に取り組む企業を募集 (4～9月上旬)</p> <p>(2)「豊橋イクボス応援団」結成とメディア周り(4月)</p> <p>(3)「イクボス企業」の実現にむけ市民の気運を高めるキャンペーンの実施 (4～9月上旬)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭PRの実施 ・地元メディアとの協力 <p>(4)募集した企業の取組みのアイデアや事例を取材、報告、発信(5～9月上旬)</p> <p>※ホームページ、ソーシャルネットワークサービス、動画サイトを通じた発信</p> <p>(5)「イクボス宣言」の賛同企業募集(5～9月上旬)</p> <p>(6)サマーコンファレンス地域再興政策コンテスト応募(7月)</p> <p>(7)「イクボス」の自社への取組み促進(9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3-1)安藤哲也講師によるイクボスセミナー～実践編～ 3-2)豊橋青年会議所による「イクボス」政策についての提言発表 3-3)「とよはしイクボス同盟」結成式 <p>(8)愛知県・豊橋市と連携セミナーの開催</p> <p>(9)イクボス同盟の参加継続受付</p>
開催時期	<p>2016年 9月19日(月) 13:00開場</p> <p>13:30開会</p> <p>16:30閉会</p>
開催場所	<p>結成式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名豊ビル 新館8F コミュニティーホール <p>PR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊橋駅ペDESTリアンデッキ
事業区分	新規
公益性の有無	公益事業
事業総予算	¥1,287,000
協力団体	<p>共催</p> <p>協賛</p> <ul style="list-style-type: none"> カフェノード 鈴木塗装店 久保田紙店 フレイズ 神谷薬品 金野社会保険労務士事務所フォレストヒル (株)ミライフ 村井社会保険労務士事務所 居酒屋百万石

福井酒造株式会社
中村典司税理士事務所
大津屋物産
丸正

後援
愛知県(東三河県庁)
豊橋市
朝日新聞社
読売新聞社
毎日新聞社
中部経済新聞社
東海日日新聞社
東愛知新聞社
エフエム豊橋
豊橋ケーブルネットワーク株式会社ティーズ

その他
・NPO 法人ファザーリングジャパン
・一般社団法人ワークライフバランス東海
・豊橋ほの国ぐるめいど隊

■イクボス同盟参加企業(JC メンバー外)

(株)豊橋テクノサイエンス
トヨネン(株)
西田メディカルクリニック
松阪司法書士事務所
中村典司税理士事務所
(株)都デザイン
さくら薬局
(株)テッシン
羽田野建築設計室
(株)フカミ
(有)リサイクリング産業
三河木材(株)
(有)たなか生花センター
丸信木材(株)
(株)ワイエムジー
フジヤ帳簿
(有)再生計画
(有)マルイ紙業
(株)ライフ建設
久保田紙店
丸正

	<p>大津屋物産 伊藤保険株式会社 Forest Hill 勢力接骨院 ニュースクリエーター m-life</p>
事業対象者	・豊橋市内の中小企業
<p>行動 (200～400文字程度)</p>	<p>2016年 3月24日 3月例会(ワークライフバランスセミナー) 4月6日 豊橋東ロータリークラブ訪問 5月9日 フォレストヒル取材 5月14日 街頭PR 5月22日 街頭PR 6月9日 豊橋経済同友会青年部訪問 7月4日 豊橋イクボス応援団Facebookアカウント運営開始 7月7日 豊橋市役所イクボス講座初日 7月8日 豊橋市役所イクボス講座二日目 7月16日 サマーコンファレンス2016政策発表 7月21日 株式会社ノズエ取材 8月2日 伊藤保険株式会社取材 8月24日 企業情報発信 9月19日 9月事業 10月6日 「地球人」取材 10月17日月 東三河県庁イクボス講座(講師:林理事長)</p> <p>2017年 4月 とよはしイクボス同盟より市役所事業へ外部委員輩出 9・10・11月(予定) 豊橋市役所・とよはしイクボス同盟にて働き方改革セミナー実施</p>
<p>結果 (200～400文字程度)</p>	<p>■企業取材について イクボス導入が直ぐ成果になる施策ではないことで、実際に取組みが進んでいる企業が少なかったことや、経営者としても外部に「イクボス」として出ることがプレッシャーになるという声が多かったことで取材対象選定が難航し、予定数には達しなかった。しかしながら、実際の取組み企業の事例を取材し、発信することにより、企業が生産性向上に取組むハードルを下げることには貢献できた。</p> <p>■イクボスの市民への啓発活動 ローカルアイドルであるほの国ぐるメイド隊様のご協力により、予定していたビラの配布を終了することが出来た。ビラ配りの過程で、今までなじみのない概念を市民に伝える難しさも感じ</p>

	<p>る一方、このような市民巻き込み活動を行ったことが、外部や行政のやりとりの中で話題になり、外部からの評価要因になったと考える。</p> <p>■とよはしイクボス同盟 結果として58社、9月事業に参加いただき、全国で5例目の地域同盟として発足できた。発足後には、他の自治体や青年会議所からの問い合わせもあるなど、一定の成果を得ることが出来た。</p> <p>■行政との連携 イクボス同盟結成後、愛知県との共同セミナーが 2016 年 10 月、豊橋市役所との共同セミナーが 2017 年 9～11 月に実施となり、地域に根付く活動になったと考える。</p>
<p>地域社会への影響 (200～400 文字程度)</p>	<p>上記の通り、イクボス同盟結成後、愛知県との共同セミナーが 2016 年 10 月、豊橋市役所との共同セミナーが 2017 年 9～11 月に実施となり、行政を巻き込んだ活動に展開したことが直接の影響であり、成果と考える。</p> <p>その上で、『イクボスのまちとよはし』、豊橋の住みやすさを PR するというシティブランディングについては、下記の通りの問い合わせがあり、こちらも一定の成果と考える。</p> <p>■行政・マスコミ・他団体関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊橋東ロータリークラブにて卓話(5月) ・豊橋市役所イクボス講座(7月) ・松山市役所からイクボス同盟結成の経緯について電話問合せ(9月) ・東三河県庁イクボス講座(10月) ・東日新聞にてイクボス連載記事の提案(9月) ・「地域人」の取材(10月) ・秋田市役所からイクボス問合せ(2017年2月) <p>■青年会議所関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒田青年会議所から議案問合せ(5月) ・日本青年会議所地域再興政策コンテスト優秀政策賞受賞(7月) ・岡崎青年会議所から議案問合せ(10月) ・十和田青年会議所から議案問合せ(10月) <p>残念ながら、豊橋市長のイクボス宣言にはいたりませんでした。地域の内外への波及、イクボスを核とした豊橋のシティブランド向上による発信、まちづくりへの展開、他地域の先行事例となるという点において、一定の成果に達したと考える。</p>
<p>LOMへの影響 (200～400 文字程度)</p>	<p>まちづくりの団体である青年会議所のメンバーとして、自社の企業が率先して地域の発展の根幹である少子高齢化社会に対応することの必要性を改めて認識し、経営者としての意識改革をすることが出来たことが、まず本質的な成果と考える。</p> <p>そのうえで、地域再興政策コンテストにて優秀賞を受賞し、また、マスコミなどへの PR により</p>

	<p>対外的に評価され、メンバーに LOM に対する誇りが醸成された。</p> <p>また、生産性向上の考え方が、LOM 運営にも活かされ、会議の事前準備、日程の調整やメンバーの予定のやりくりなど、LOM 運営のレベル向上にも繋がった。</p> <p>少子高齢化へ取組み、プライベートや家庭を大切に作る姿勢を LOM として提示したことにより、メンバーの家族からの理解と支持が高まり、活動に好影響を及ぼした。</p>
<p>事業の長期的な影響 (200～400 文字程度)</p>	<p>本事業で結成した「とよはしイクボス同盟」は2016年末を持って、一旦豊橋青年会議所の手を離れ、任意団体として活動することとした。</p> <p>その上で、豊橋市役所から外部委員の輩出以来要請や、共同セミナーの開催など行政との連携が進んでいる。</p> <p>一方、参加事業所数がまだまだ少ないが、参加企業を一社でも多く増やしていく取組みをすすめていく。</p> <p>これらの活動が花開いた後には、豊橋市内企業の労働生産性向上が達成し、出生率向上の達成、都市ブランド力向上・人口社会増の達成へと繋がり、豊橋市が経済的にも、人口的にも、住みやすさの点においても、発展していく物と考える。</p>
<p>考察や推奨 (200～400 文字程度)</p>	<p>「イクボス」の拡大普及に当たっては、当初からその語感より「イクメン」「育児」に特化した事業という解釈をいただくことが多くあった。また、年度当初より懸念されていた、中小企業経営者が当事者意識を持てるかという点についても、年間通じて取組む中で課題としてあり続けた。</p> <p>この点については、大規模な広報だけでなく実際に丁寧に話していくことの重要性を痛感した。担当者としても、理解が得やすいだろう、導入の成果が直ぐに現れるだろうと、事業当初に思っていた不明を思い返すところである。</p> <p>事業の展開につれて、「イクボスは漢方薬、抗生物質のような誰にでも効く即効性のある話ではなく、それぞれの組織に応じて時間をかけて体質改善をしていくこと」という言葉を心から実感する。</p> <p>すなわち、「イクボス」の導入は単なる制度導入のテクニックの話ではなく、リーダーの信念として、組織の体質改善、価値観の変革、風土づくりに、長期間のコミットをする覚悟があるかを問われる、非常に重く責任のある概念だと、学ばせていただいた。</p> <p>これを踏まえ、とよはしイクボス同盟は豊橋青年会議所の手を離れ、行政や参加企業と連携し、今後も地に足の付いた活動を展開していかなければならない。</p> <p>具体的には、単に参加募集のための情報発信だけでなく、中小企業にとって有益なセミナーの開催や、働き方改革を促進する行政制度の提案などを、官民一体となって進めていく必要がある。</p>
<p>その他</p>	

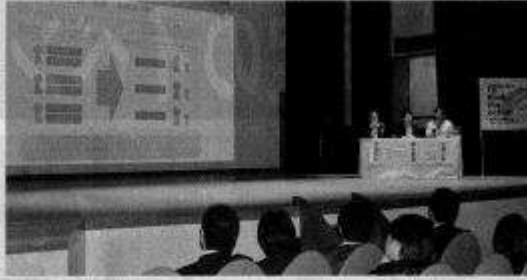


とよはしイクボス同盟結成式の写真



街頭での PR 活動

イクボス養成を目標として開かれた討論会。豊橋市公益室で



時代に合った「イクボス」育成

仕事と生活の両立が大切

会 討 論 会
演 講 員 J C
講 壇 豊

部下や自らのワー
クライフバランス
(仕事と生活の両立)
を考へ、仕事の成果
も出せる上司「イク
ボス」の養成を目標
し、豊橋青年会議所
(林啓介理事長)が
24日夜、イクボスを

どうする？ 育児や介護

安藤さんら3人に
よる討論会では、「育
児休暇を取る社員、父
子家庭になった社員
どう導入するのか」の
質問に対し、安藤さ
んは制度に当ては
まらないという理由

に働き方を要すると
いう考えを持つよう
なったと説明した。
ワークライフバラ
ンスが業績をどう関
係があるのかという
疑問に対し、ワー

イクボス養成を目標として開かれた討論会。豊橋市公益室で

ライフバランスの普
及に取り組み田川裕
磨さんは、残業を削
減した会社の事例を
挙げ「残業するのは
悪という風土をつく
る。長時間労働が是
正され女性が活躍
できるようになる。
労働時間が減って売
上が上がったと紹
介した。
会社の人事評価に
関し「世間標準は時
間内に質、量、日本
は時間に関係なく、
質、量となっている」
とも話した。
今後、同青年会議
所はイクボスのPR
や養成に向けて活
動。豊橋市内の企業
の事例をウェブサイ
トで紹介するなどし
て賛同する企業を増
やし、9月に「豊橋
イクボス同盟」を結
成する。(中村賢也)

仕事、私生活両立イクボス



仕事と私生活の両立をテーマにした講演会が、豊橋青年会議所（豊橋JC）で開かれた。講演者は、イクボス（仕事と私生活の両立を推進する経営者）として知られる、大塚正幸社長がパネリストとして参加した。会場には、豊橋JCのメンバーや関係者約100人が参加した。

講演では、大塚社長が「イクボスとは、仕事と私生活を両立させる経営者である」と定義し、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。

豊橋JC講演会

「イクボス」は、仕事と私生活を両立させる経営者を指す。大塚社長は、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。

講演では、大塚社長が「イクボスとは、仕事と私生活を両立させる経営者である」と定義し、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。

社員育つ労働環境を

【豊橋】豊橋青年会議所（豊橋JC）は、社員育つ労働環境を推進することを目的として、講演会を開催した。講演者は、イクボス（仕事と私生活を推進する経営者）として知られる、大塚正幸社長がパネリストとして参加した。

講演では、大塚社長が「イクボスとは、仕事と私生活を両立させる経営者である」と定義し、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。



講演では、大塚社長が「イクボスとは、仕事と私生活を両立させる経営者である」と定義し、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。

講演では、大塚社長が「イクボスとは、仕事と私生活を両立させる経営者である」と定義し、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。

豊橋JC

イクボス推進へ理解を深める。豊橋JCは、仕事と私生活を推進する経営者を支援する。講演では、大塚社長が「イクボスとは、仕事と私生活を両立させる経営者である」と定義し、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。

講演では、大塚社長が「イクボスとは、仕事と私生活を両立させる経営者である」と定義し、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。

講演では、大塚社長が「イクボスとは、仕事と私生活を両立させる経営者である」と定義し、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。

講演では、大塚社長が「イクボスとは、仕事と私生活を両立させる経営者である」と定義し、その実現には「柔軟な働き方」や「ワークライフバランス」の推進が不可欠であると述べた。

「豊橋『イクボス』宣言」ベスト4

J・C 地域再興政策コンテスト



豊橋青年会議所 事務局長 林啓介氏。J・C主催の地域再興政策コンテストに「豊橋『イクボス』宣言」で応募し、総数100件のうちベスト4に選ばれた。

ベスト4に選ばれた。表彰式は今月横浜市中区であり、同政策をまとめた村井祐一郎・井委員長の東愛知新聞社で、記者会見を行った。村井委員長は「イクボス企業同業」を結成し、市内外へ広めていく政策。定時に帰省できる企業体質などつくる。企業リーダー・イクボスを育てていく。子育てのまち豊橋を発信していく。出生率を高め、リターン・イターンも呼び起こし、人口増によって地域活性化へ結び付けたい」と抱負を述べた。

若い企業家が独自政策を競った。このコンテストは、地方創生を進める内閣府の後援も得て、今年初めて行われた。地方への新しい人の流れをつくる▽地方に仕事を創る▽地方に人を集める▽地方に安全な暮らしをつくる▽地域間連携によって、などの政策が多く寄せられ、地域活性化課伝道師として知られる、木村乃・ビジネスデザイン部長が審査委員長を務めた。25歳のダイニングで地元へリターンする「イチゴ農家入会式」を掲げる、小野東J・C（兵庫県）がグランプリ。

豊橋J・Cが提案したイクボス宣言とは、企業の子育て支援を促す「ことば」は「イクボス企業同業」を結成し、市内外へ広めていく政策。定時に帰省できる企業体質などつくる。企業リーダー・イクボスを育てていく。子育てのまち豊橋を発信していく。出生率を高め、リターン・イターンも呼び起こし、人口増によって地域活性化へ結び付けたい」と抱負を述べた。

子育てにスポットを当てたJ・Cは珍しかった。地味な政策ですが、結果で分かります。点が評価されたものでは「と村井委員長、今回の受賞を目標として、豊橋J・Cでは9月19日に「イクボス同業結成式」を、一般公開で催す予定。地元中小企業社が参加する予定だが、村井委員長は「ゼロ・イチ・ゼロ社以上したい」と、同業同業を広げたいと、呼びかけていく方針だ。（藤田彰彦）

イクボス」でまちづくり

「豊橋イクボス企業同盟」結成

豊橋青年会議所（ＪＣ、林啓介理事長）は19日、豊橋市駅前大通りの名豊ビルで、全国で1例目、市町村単位では初となる民間の地域同盟「豊橋イクボス企業同盟」を結成した。東海日日新聞社が後援。

豊橋ＪＣは、日本「ヤリア」と人生を応援する「イクボス」が主催する地域振興政策コンテ「イクボス」を推進する。結果を出し、自らも「イクボス」になることを目指す。この日は、豊橋、川口、藤原から約70人が参加。イクボスとは、部下の「

イクボス」は、現代の参画型で、ワークライフバランスを推進する。この日は、豊橋、川口、藤原から約70人が参加。イクボスとは、部下の「



「豊橋イクボス企業同盟」結成の瞬間（名豊ビルで）



安藤さん＝右から2人目＝と真剣に話し合う参加者

イクボス」は、現代の参画型で、ワークライフバランスを推進する。この日は、豊橋、川口、藤原から約70人が参加。イクボスとは、部下の「

イクボス」は、現代の参画型で、ワークライフバランスを推進する。この日は、豊橋、川口、藤原から約70人が参加。イクボスとは、部下の「

豊橋JCCに優秀政策賞

地域再興政策「豊橋イクボス宣言」の推進へ コンテスト

豊橋青年会議所（JCC、林啓介理事長）はこのほど、上部団体である日本JCCが主催する地域再興政策コンテストで優秀政策賞を受賞した。「豊橋イクボス宣言」を推進する政策提言が評価された。



受賞を報告する豊橋JCCの村井裕一郎氏（東海日日新聞社で）

「イクボス」とは「の両立を応援しな部下の仕事と家庭」がら会社でも業績

を上げる上司のこ

と。豊橋JCCでは今年、豊橋イクボス宣言をして、育児しやすい働きやすい環境づくりに取り組む企業を増やす事業を展開している。9月19日には豊橋公会堂において、「こよほしイクボス

同盟」の結団式も計画している。

22日、受賞報告のため東海日日新聞社を訪れた、豊橋JCC本来の企業創造委員会委員長の村井裕一郎氏は、「子育てのまち豊橋」というブランドを定着させ、出生率向上や移住者

の増加につなげた」と事業のねらいについて説明した。イクボス宣言に関する問い合わせは、豊橋JCCへ電話0532(52)9980まで。

（石川正司）

目指せ「イクボス同盟」

豊橋JCが24日シンポ

仕事と私生活の両立を図り企業やまちを育てていく「イクボス」の輪を広げようと、豊橋青年会議所（JC）は24日、シンポジウム「イクボスで会社も部下もハッピーに！」を豊橋市八町通の市公会堂で開く。「イクボス宣言」を発する企業や個人で「豊橋イクボス同盟」を9月に結成することを目標にしており、「育児支援にとどまらないイクボスの考え方を多くの人に知ってほしい」と参加を呼びかけている。

と呼ぶように、「イク」は育児の「育」と捉えがち。シンポジウムでは、部下や自分自身のワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）を考慮し業績をあげる上司・経営者を「イクボス」として擁唱する、NPO法人「フアザリング・ジャパン」（東京都）の安藤哲也代表理事（53）を招き「なぜ、今イクボスカ」をテーマに講演してもらう。

豊橋JC未来の企業創造委員会の村井裕一郎委員長（36）は「少子高齢化が進み、育児だけでなく家庭で介護をしなければならぬ働き手が増えている。中々のあり方を変えていく小企業の労働力確保や必要がある」と話す。



プライベートの活動を充実させ、企業も地域も活性化していくという考え方だ。

113人の同JC会員にアンケート調査したところ、約7割がワーク・ライフ・バランスへの対応が必要と回答した。ただ従業員の労働時間を減らして人手が足りるのか不安もあり、「自分の会社では無理」という声も多かったという。これまでにイクボス宣言を出した会員企業はなく、林啓介理事長（38）が同JCとしてイクボス宣言するシンポジウムを皮切りに、賛同者を募っていく。

安藤氏の講演とパネルディスカッションでイクボス同盟の結成を目指す豊橋青年会議所のメンバーたち―豊橋市花田町の豊橋青年会議所事務所

ら会社でも業績を上げる上司「イクボス」に関するセミナーが24日、豊橋市公会堂で開かれる。主催は豊橋青年会議所（J

構成するシンポジウムは午後6時開演。入場無料。問い合わせは同JC（0532・52・9980）へ。
【吉富裕倫】

頑張れ！イクボス

養成目指す豊橋JC

24日に講演会



豊橋青年会議所（左から）林啓介理事長、豊橋市八町通でイクボス養成を目的とした「イクボス」の公開例会を開催する。右から豊橋JC代表理事の安藤哲也氏、豊橋市公会堂の公開例会「イクボス」で会社も部下もハッピーに！（中部経済新聞社）

部下や自らのワークライフバランス（仕事と生活の両立）を考え、仕事の成果も出せる上司「イクボス」。

豊橋青年会議所（林啓介理事長）が、イクボス養成を目的として活動をスタートさせる。24日夜には豊橋市公会堂で講演会などを開き、多くの参加を呼び掛けている。

同会議所が2月に実施した会員アンケートの結果では、7割がワークライフバランスが必要と回答。ただ、実行は難しいと思うというのが現状という。

24日の講演会では、イクボスを提唱しているNPO法人「イクボス」の代表理事・安藤哲也さんを講師に迎え、イクボスについて理解を深めてもらう。「イクボスの作り方」と題した討論会も行う。午後6時開演。入場無料で誰でも参加できる。

今後、豊橋青年会議所はイクボスのPRや養成に向けて活動。豊橋市内の企業の事例をウェブサイトで紹介するなどして賛同する企業を増やし、9月に「豊橋イクボス同盟」を結

未来をつくるチカラ
ISO 14001 認証登録
株式会社 明輝クリーナー
TEL.0532-25-1026
本社：豊橋市若松町字中山101番地の34
原町工場：TEL0532-41-7530

中小も「イクボス」普及を

豊橋JC 24日に公開例会

豊橋青年会議所（理事長＝林啓介）は24日、豊橋市公会堂大ホール（豊橋市八町通）で3月の公開例会「イクボス」で会社も部下もハッピーに！（中部経済新聞社）を開催する。イクボスとは、部下のワークライフバランスに配慮しながら業績も上げる経営者や管理職をいう。豊橋JCは地域の先頭に立ち、イクボスの概念を中小企業にも浸透させる考え。例会では、イクボス運動提唱者の安藤哲也氏が講演を行う。また、林理事長が全国のJCに先駆け、自ら「イクボス」をめざすことを宣言する。



（豊橋）

2部構成でイクボス運動 厚生労働省のイクメンプロジェクトにも関わる安藤氏 ける予定。参加者にワークライフバランスの意識が「なげイクボス」を語らざるを得ない。第2部は、男性の育児の必要もなし。途中の入退場も自由。開演は午後6時。問い合わせは、豊橋JC事務局（電話0532・52・0980）まで。

1 次審査選定理由

- ・新しい観点でイクボスが普及することにより企業が活性化し地域経済に良い影響を与えるという好循環モデルを提案、実践した点。
- ・働き方改革という課題を先駆けて取り上げ、解決の一案を提示している。
- ・多くの企業を巻き込み、生産性向上に向けた取組の一步となっている点を高く評価しました。
- ・地域経済の発展には柔軟で多様な働き方が求められます。その様な中で、青年会議所が応援団として率先して取り組んでいくことが良いと感じ選定しました。
- ・少子化対策のために、生産性を高め仕事の共有化を図り、多様な働き方に対応できるワークライフバランスが実現した企業が必要という視点に魅力を感じた。
- ・SNSやメディアも効果的に使っており、多くの企業に協力してもらい事業を行ったこと。

アイデンティティ確立確立特別賞選定理由

- ・全体に評価出来ますが「イクボス」の概念が文書中に明示されていないので、示しておいたほうが良いと思います。
- ・事業内容の充実度が高く、事業後においても具体的な成果を見ることができますので、JCのブランディングは十分推進できたと思います。
- ・社会要請として非常に重要な取組で、JCがリードすることで、企業間連携が期待できる。